令和６年度　東海教育オーディオロジー研究協議会　第２１回講演会

後援　東海地区聾学校長会

１　日　時　令和７年２月８日（土）１０：１０～１６：００

２　会　場　名古屋市総合社会福祉会館　　TEL 052-911-3191
北区清水四丁目 17-1（北区総合庁舎内 7F）
※名古屋市総合社会福祉会館のホームページで地図をご確認ください。

３　講　師　東海学院大学講師　小川　征利先生
文教大学教授　佐々木　順二先生

４　日　程
9:50～10:10　受付
10:10～10:15　開会式・日程説明
10:15～11:45　講演『今日からの聴覚障害教育への期待
－ひとりひとりの専門性を生かすこと－』
言語聴覚士・東海学院大学講師　小川　征利先生
11:45～13:00　昼食
13:00～15:30　講演『日本の聴覚障害教育の専門性の形成とその継承・発展
−専門家主導の視点と当事者の視点の融合―』
文教大学教授　佐々木　順二先生
15:30～15:50　質疑応答
15:50～16:00　閉会式

５　参加費

当日会場にて お支払いください。	**会 員**	**会員外（一般）**	会員外（学生）
	０円	１,０００円	５００円
オンデマンド	１,０００円（振込み） メールにてご連絡しますので、ご確認ください。		

※オンデマンドの配信期間：２月１５日（土）～３月８日（土）

６　定　員　６０名

７　申　込　申込み期間　令和６年１２月１１日（月）～令和７年１月１１日（木）
・参加希望の方は、Googleフォームで、必要事項を記入・選択して、申し込んでください。
・情報保障（手話通訳）が必要な方は、申込みの際に選択してください。情報保障は、手話通訳のみです。

申込先　Google フォーム：https://forms.gle/MDWHFrqyxx3F6ajL6（会場）

https://forms.gle/XvqeMJcTQN5aVtwz8（オンデマンド）

・メールアドレス入力ミスにご注意ください。
・申し込み後すぐに、申込み完了メールが届きます。届かない場合は、メールアドレスの入力ミス、もしくは、迷惑メール等の設定をしている場合があります。
尚、申込期限間際は、申込みが集中します。その場合、一日の返信可能数に限りがあるため、申込み完了メールが届かない可能性があります。分散しての申込みに御協力ください。
・メールアドレスの入力ミスの場合は、再度Googleフォームでお申込みください。

裏面に続く

８　その他　・公共交通機関でお越しください。
・昼食は、会場でおとりいただけます。
＊ご不明な点がございましたら、下記にお問い合わせください。
東海教育オーディオロジー研究協議会事務局
メールアドレス：toukai.ed.aud@gmail.com
ＨＰアドレス：http://www.normanet.ne.jp/~tokai/
※電話でのお問い合わせはご遠慮ください。

９　紹　介

（1）午前の講師　言語聴覚士・東海学院大学講師　　小川　征利先生

〇講演要旨『今日からの聴覚障害教育への期待　－ひとりひとりの専門性を生かすこと－』

ろう学校や難聴学級への異動の時「どうしよう、聴覚障害教育初めてだし…」などと不安に思ったり、困ったりした経験のある先生方。かく云う私もそうでした。

でも、ろう学校で１年２年と過ごしていくうちに、自分がそれまでにコツコツと身に付けて生きた専門性が活かせることに気付くことができました。もちろん、聴覚障害教育固有の専門性について学ばなければならないこともたくさんありましたが。

インクルーシブ教育の時代。先生方ひとりひとりがもっている得意なこと、専門性を活かしていくことが聴覚障害教育を発展させていくことにつながると信じています。

（2）午後の講師　文教大学教育学部発達教育課程特別支援教育専修・教授　佐々木　順二先生

名古屋市生まれ。高校は埼玉県、大学は静岡県で過ごす。大学では文化人類学を専攻。大学２年の時（1993 年）、家庭教師で聴覚障害のある中学生と出会い、聴覚障害児教育に興味をもつ。愛媛大学特殊教育特別専攻科（2005 年 3 月廃止）にて聾学校教諭免許状を取得後、筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科に進み、障害児教育の研究の道を志す。

聖徳大学、九州ルーテル学院大学を経て、2020 年４月から現職。これまで一貫して特別支援学校教諭免許状の教職課程を担当。

学問的土台としては、障害および障害児教育を歴史的・社会的・文化的文脈の中に位置づけて縦横に探究する「障害原理論」をおく。具体的には、日本という文脈の中で、聴覚障害教育の専門性の形成のプロセスについて、教師の研究会やサークル、医学・心理学等の学問分野、聾・難聴当事者の活動との関連から研究を続けている。

〈最近の論文〉

「昭和戦前・戦中期聾教育における「言語の生活化」論の意義と文脈―野中榮次の言語指導論に着目して―」聴覚言語障害、52 巻 1 号、1-15 頁、2023 年。

「義務就学制実施後の聾教育の目的論の変遷―昭和 40 年代までの東京都立学校通信を手がかりに―」心理・教育・福祉研究、20 号、1-17 頁、2021 年。

「インクルーシブ教育における障害観の相克」文教大学教育学部発達教育課程編『発達と教育』北樹出版、116-127 頁、2024 年。

〇講演要旨『日本の聴覚障害教育の専門性の形成とその継承・発展
－専門家主導の視点と当事者の視点の融合―』

日本の聴覚障害教育の歩みを概観しながら、その「専門性」の形成において重要なトピックを取り上げ、その中から、今日の私たちが継承すべきもの、そして創造すべきものを参加者の皆さんと共に考える機会にできればと思います。トピックの候補としては、明治初期の小学校で見られた聾唖児の指導事例を支えた背景、昭和戦前期に増加する専門的教員とその「専門性」、昭和 30 年代の「聴能学」と「共同思考の場」としての研究会・学会、昭和 40 年代における障害観の問い直しと統合教育、インクルーシブ教育時代の子ども観・障害観と聴覚障害児教育といった内容が想定できますが、時間的制約もあるので、その中からいくつかをピックアップできたらと思います。